

建設工学科 教室会議（教育プログラム関連） 議事録

1. 日 時

平成 17 年 6 月 8 日（水） 12 : 00～13 : 00

2. 場 所

7 号館 建設工学科会議室

3. 出席者

辻学科長ほか

4. 資 料

最終審査結果報告書（JABEE）

5. 議 題

●報告事項

(1) 5 月 12 日付で昨年の JABEE 中間審査の最終審査結果報告書が届き、認定継続の判定がなされたとの報告があった。各基準の指摘事項については真摯に受けとめ、今後の教育改善に生かすことが確認された。

●協議事項

- (1) 6 月 17 日の編入学試験に関する実施手順が説明された。編入学試験で合格した者の学修履歴を点検し、本学科の第二学年までに履修すべき必須科目の内容と不整合がある場合には、入学前に個別の学習指導を行うことが確認された。
- (2) 受験者数確保のため、来年度も東京試験場での入試を実施する方針が確認された。

以上

建設工学科教室会議(教育プログラム関連) 議事録

1.日時

平成17年6月17日 15:00～16:30

2.出席者

辻学科長以下8名

3.記録

小葉竹 (教育システム検討小委員会関係のみ)

4.資料

現代G P 申請書

5.議題

- ・現代G P (実戦的英語教育に関するプログラム) の委員会立ち上げの報告と内容について確認した。
- ・JABEE 継続審査に向けての方針を話し合った。
- ・インターンシップについて、建設工学科も参加する方針を確認した。

建設工学科 教室会議（教育プログラム関連） 議事録

1. 日 時

平成 17 年 9 月 28 日（水） 16：30～17：30

2. 場 所

7 号館 建設工学科会議室

3. 出席者

辻学科長ほか

4. 資 料

入試成績と入学後成績との相関を整理した資料（関入試委員長 作成）

5. 議 題

●報告事項

- (1) 本学科の学生の入学試験時の成績と入学後成績との相関表に基づき、学科の教育カリキュラムと適切な入試科目設定との関連性について議論するとともに、入学後、学生自身に自己の学習達成度を継続的に意識付けていることの重要性が再確認された。

●協議事項

- (1) 11 月 25 日の推薦入学試験に関する実施手順が検討された。

以上

建設工学科教室会議(教育プログラム関連) 議事録

1.日時

平成17年11月15日 12:00～13:30

2.出席者

辻学科長以下9名

3.記録

小葉竹 (教育システム検討小委員会関係のみ)

4.資料

- ・推薦入試関連資料

5.議題

- ・平成18年度推薦入試について

平成18年度の推薦入試定員について、10名から7名に変更する案が議論され、7名に決定した。

建設工学科教室会議(教育プログラム関連) 議事録

1.日時

平成18年1月27日 15:00～16:50

2.出席者

辻学科長以下7名

3.記録

小葉竹(教育システム検討小委員会関係のみ)

4.資料

工学部将来構想(案)

5.議題：重点化に伴う建設工学科の改組について

1. 学科名称(専攻名称)について

従来の将来構想(案)と全く異なる、新たな改組再編案が立ち上がり、実現の可能性の高いことが報告された。これに伴う、建設工学科の新たな専攻名について議論された。

2. 学科(専攻)の教育内容について

新たな学科でも、従来の教育内容を変更する必要はないことが報告された。しかし、新たな組織となることから、従来の教育内容を変更することなく、時代の要請に即した講義名とすることや、新たな内容も付加することで一致した。これに伴うカリキュラム案は将来構想委員で検討することとした。ただし、これらはJABEEの認定内容にも係わることなので、確認をとりながら進めることとした。

建設工学科 教室会議（教育プログラム関連） 議事録

1. 日 時

平成 18 年 2 月 15 日（火） 17：50～19：00

2. 場 所

7 号館 建設工学科会議室

3. 出席者（敬称略）

辻学科長，清水学務委員，渡邊学務委員，小葉竹，片田，杉山，若井，及川，蔡，金井

4. 資 料

平成 17 年度プログラム修了生の総合評価（自己診断シート結果）

5. 議 題

●報告事項

(1) 来年度の研究室配属に関して，担当者より，仮配属者が決定し，メールでその一覧を知らせた旨の報告があった．

●協議事項

(1) 本日開催された卒業研究発表会の状況および各学生の卒業研究指導教員からの意見を参考にして，発表者全員が基準を満足していることを確認し，全員合格と決定した．

(2) 上記を受けて，杉山先生より，平成 17 年度プログラム修了生（見込み）の自己診断シートの最終点検の結果が報告された．卒業研究に関わる項目に対し修了生全員が基準を満足することになる旨が報告され，現在は後期試験中であり，最終的な判断は卒業判定を待つことになるが，卒業要件と照らし合わせて，本学科の全ての学習・教育目標を全員が達成する見込みとなった．

(3) 学生実験担当 TA の配分の再検討について協議し，18 年度は，前期の都市工学第一担当分の TA を一名減じることとなった．

(4) 来年度の 1 年生ならびに 2 年生ガイダンス担当者の確認をした．

建設工学科教室会議(教育プログラム関連) 議事録

1.日時

平成18年2月20日 15:30～16:30

2.出席者

辻学科長以下8名

3.記録

小葉竹(教育システム検討小委員会関係のみ)

4.資料

- ・工学部重点化資料
- ・カリキュラム案

5.議題：重点化に伴う建設工学科の改組について

1. 学科名称(専攻名称)について

- ・専攻名は旧生物化学工学科の一部と専攻を構成することから、環境創生工学専攻とする方向であることが報告された。これに併せて建設工学科の新名称が議論され、社会環境デザイン工学ではどうかとの意見があった。

2. 学科(専攻)の教育内容について

- ・今日の土木技術者は高い専門性だけでなく広範な視野を有することが求められている。これと関連して、カリキュラム中の選択必修科目の履修方法を見直した方が良いとの意見が出された。
- ・これについて、学科の教育プログラム内に複数コースを設置する趣旨ではないが、従来は卒業要件を満たすための選択必修科目群の履修方法として、社会基盤工学コースと都市工学コースという二種類の履修方法を設けており、これは学生の科目選択の自主性を高めることによる教育効果を狙って設置した制度である。
- ・しかし、今日では、これら選択必修科目群のいずれも履修希望する学生が多く、この制度の果たす役割は小さくなったと判断される。すなわち、改組後のカリキュラムにおいては、従来の学習・教育目標を変更することなく、これらの履修選択制度だけを廃止することで意見が一致した。
- ・時代の要請にあった社会環境デザイン工学は、どうあるべきかという基本理念について意見交換を行った。
- ・このとき、高校生への「売り」も重要であるとの認識が示された。

建設工学科 教室会議（教育プログラム関連） 議事録

1. 日 時

平成 18 年 3 月 23 日（木） 11：00～

2. 場 所

7 号館 建設工学科会議室

3. 欠席者（敬称略）

渡邊 学務委員

4. 資 料

資料 1 平成 17 年度進級判定資料

5. 議 題

●協議事項

- (1) 資料 1 に基づいて、本学科の 2 年生ならびに 3 年生に対する単位取得状況を確認し、進級規定に沿って、進級の可否が審議された。
- (2) (1)に伴い、進級が否となった学生に対する連絡の方法等の確認がされた。
- (3) 工学部の学位授与式が従来から大きく変更されたことに伴い、謝恩会のはじめに、学位授与記と JABEE 修了書を 4 年生の代表者 1 名に手渡すセレモニーのみを行うこととした。